

10

free paper

0470-



0470-people
福山一郎さん
インタビュー、文・菅野博

【ふくやま・いちろう】1957年生まれ。江戸天保年間創業、君津の老舗花火工場、福山花火工場の6代目。平成11年に社長に就任。平成20年には打ち揚げ花火が千葉県指定伝統工芸品に認定を受ける。その他、通産大臣賞受賞、全国伝統工芸品認定など。現在は国内外での技術指導を精力的に行っている。

武器から娯楽へ。

花火が生まれたのは、江戸時代になってから。それまで武器として使われていた火薬が、戦のない時代になってその用途が娯楽へと変化していった。でも正確な始まりというのは、諸説あってわかっていないんだよね。花火は狼煙（のろし）から発展して生まれたという方もいるんだよね。特に山奥の町はロケット花火のようなものを打ち揚げて狼煙に使っていたという話もあるらしい。



私の先祖は上総国飯野藩（現在の千葉県富津市下飯野に存在した藩）に火薬の守り役として仕え、のちに花火を作ることになる訳。福山花火工

場は江戸時代の創業なんだけれど、最初の頃は好きな人達が集まって花火を揚げていたみたい。

館山の花火大会はすべて福山花火工場産の花火を使用。

館山の花火大会で揚がるものの中で一番大きいのは8号（割れた時の直径は約250cm）。花火大会の打ち揚げ場所と観客との距離感によって玉の大きさを決める。現在、館山の花火大会はすべてうちの花火を使っている。一回の大会で使用するおおよそ1万発を作っている。醍醐味は水中花火なんだけど、実は仕組みはとても簡単で、船を出してそこから玉を海に落とすだけ。だから半分が顔をのぞかせているだけなの。知っている人は船が来ると水中花火が始まるってわかるみたい。私たちが今関わっている花火大会は館山以外にも鴨川や天津、木更津、袖ヶ浦、船橋など。うちほだいたい県内の仕事が多い。

多い。昔の南房総の花火大会は全部うちがやっていました。鋸南や岩井もやって、全部やってたもん。今、100%うちの花火を使ってくれているのは館山と鴨川、小湊とかかな。花火は業者によって特徴があるんだよね。揚げ方にしろ、花火の種類にしろ。色や打ち揚げるタイミングとかが全然違う。木更津は3社でやっているけど各社全然違いますよ。あと花火は音でしょ。音がなくちゃおもしろくないでしょ。あの響く音がいいんだからね。音も大切ですよ。花火の打ち揚げ作業は講習をうけて「手帖」という資格をとれば誰でもできるんだよ。夏になると打ち揚げ人と呼ばれるアルバイトを100人くらい雇います。普通の会社員が免許を取って、夏の間アルバイトするなんて人もいるし。（表紙写真は館山花火大会の打ち揚げ準備風景。）うちで実際に花火の玉を作っているのは従業員の5人だけ。忙しいときは中国の関連工場に制作を依頼する。翌

年の準備は花火大会が終わった後、10月くらいから始まります。火薬の調合を行なって、乾燥時期に花火用語という星（ほし）という色を出すものや割火薬（わりかやく）という星を遠くへ飛ばす火薬を作っている。玉の組み立てと玉貼りを行なう。業界で一番大きいサイズは15号と呼ばれるもので、割れた時の直径は300mになるんだ。

花火はまだまだ進化しますよ。

うちのこだわりは小さな玉でも芯（しん）。1つの玉で連続した仕掛けを生み出す）が入っていること。小さければ小さい程玉というのは作るのが難しいんだよね。割れた時になかなか丸く出ないから。今は（直径）6cmの玉から芯が入ってる。他の花火大会とうちの花火大会は違うと思えますよ。芯が入っているのと入っていないのでは豪華さが違いますからね。そこにこだわって研究をしている

今年はお客さんにとって二度おいしい花火を作りたいんだよね。何かが消えて何かが出る。そういう花火を作っていきたい。花火はまだまだ進化しますよ。日本国内でもみんなで切磋琢磨をしあっている。うちみたいに芯にこだわるところもあれば、美しく寸分変わらずに花火を丸く出すことにこだわっていたり。まあこの世界は職人しかかわからないと思うけど。

今年、館山湾花火大会の見どころは？

今年、空をいっぱい使おうと思っ



第49回館山湾花火大会
2012年8月8日（水）19:30～20:45

特大スターメインや8号玉（直径250m）を使った水中花火が名物の毎年1万発が打ち揚げられる館山の花火大会。福山花火工場の花火が美しく打ち揚げられます。

『銀色に海の膨らむ』抄

アップダウン岬めぐれば開けゆき房総の海しろがねに光る

手つかずの朝は白銀^{しろがね}。走りつつ坂をこゆれば海の膨らむ

夏の子ら汀に笑ふ声ひびき 波間にキララ跳ねあぐる、光

おほどかに乳房をゆらし海女泳ぐわれも磯辺に衣を脱がな

あやかしの棲みゐん波は銀色に膨らみにつつまかがやくなり

あはあはと墨の香りに仮名を書き猛暑をよいしよくぐり抜けゆく

大空に連綿体の仮名の線なぞれば雲は指先に動く

トンネルを出づれば明るく大きい海 人はみな泣きながら生まれし

病棟の西日に夫は鮮やかなり 手を振り我は半身を置き来^こし

「^{あまつひ}天面」とふバス停の名の耳掠めカーブに傾く、ふいに泪ぐむ

「銀色に海の膨らむ」木村早苗 著（本阿弥書店）より

木村早苗

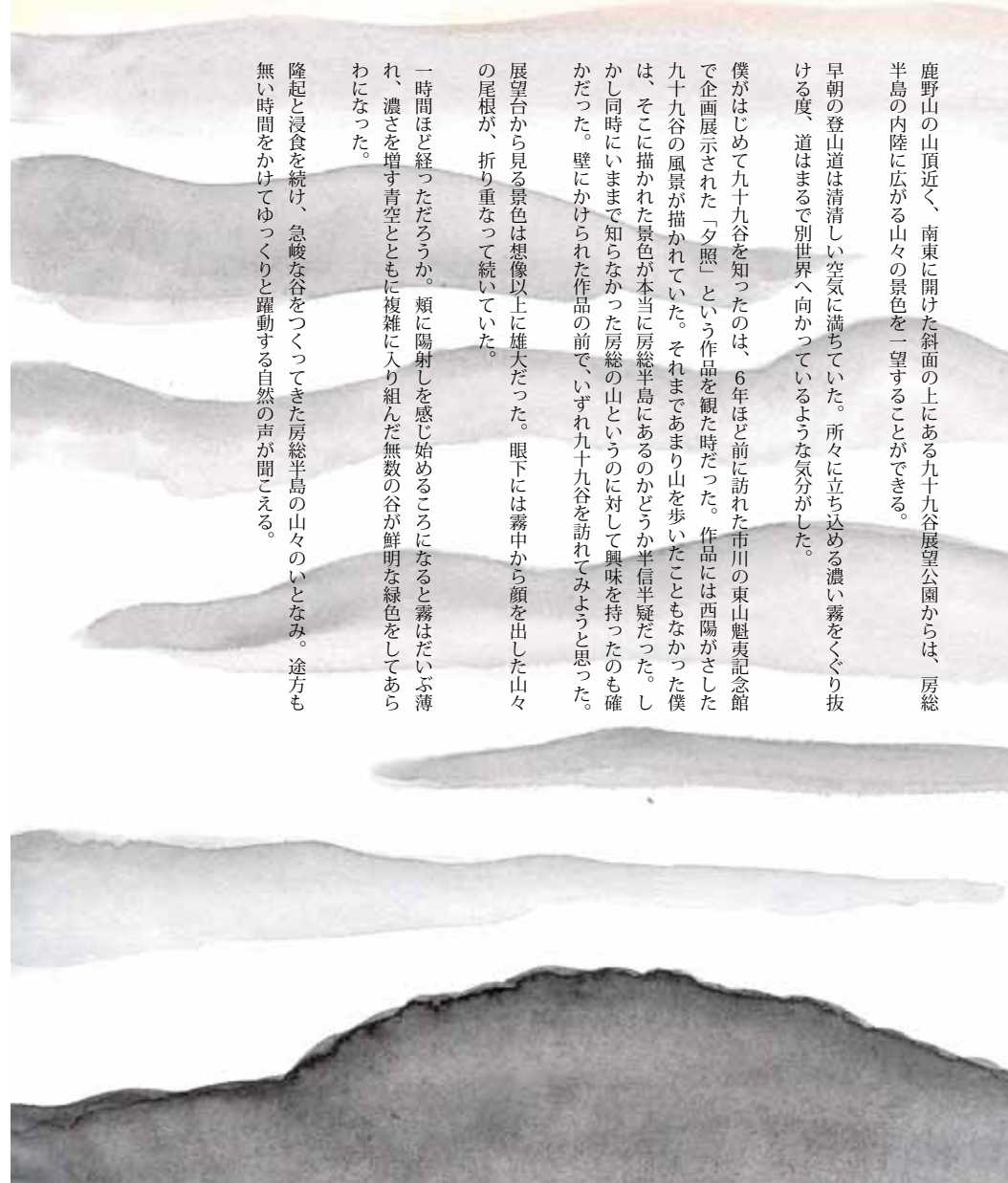
1983年明治大学文学部（地理学専攻）卒。書道を日本書道美術館館長小山天舟に師事。公認審査員。館展特選など受賞。短歌を『炸』松坂弘に師事。日本歌人クラブ会員。歌集『銀色に海の膨らむ』（本阿弥書店）で、2011年島木赤彦文学新人賞を受賞。2005年夫の療養の為、横浜から千倉へ移住。

{ 0470-scape }

「九十九谷」

くじゅうくたに

文・前田宣明 絵・鈴木麻子



僕がはじめて九十九谷を知ったのは、6年ほど前に訪れた市川の東山魁夷記念館で企画展示された「夕照」という作品を観た時だった。作品には西陽がさした九十九谷の風景が描かれていた。それまであまり山を歩いたこともなかった僕は、そこに描かれた景色が本当に房総半島にあるのかどうか半信半疑だった。しかし同時にいままで知らなかった房総の山というのに対して興味を持ったのも確かだった。壁にかけられた作品の前で、いずれ九十九谷を訪れてみようと思った。展望台から見る景色は想像以上に雄大だった。眼下には霧中から顔を出した山々の尾根が、折り重なって続いていた。

一時間ほど経っただろうか。頬に陽射しを感じ始めるころになると霧はだいぶ薄れ、濃さを増す青空とともに複雑に入り組んだ無数の谷が鮮やかな緑色をしてあらわになった。

隆起と浸食を続け、急峻な谷をつくってきた房総半島の山々のいとなみ。途方も無い時間をかけてゆっくりと躍動する自然の音が聞こえる。

鹿野山の山頂近く、南東に開けた斜面の上にある九十九谷展望公園からは、房総半島の内陸に広がる山々の景色を一望することができる。

早朝の登山道は清しい空気に満ちていた。所々に立ち込める濃い霧をくぐり抜ける度、道はまるで別世界へ向かっているような気分がした。



{ 0470-pick up }

「ローズマリーの帽子」

取材・文 岩松裕子

帽子はお好きですか？

南房総市白子の『ローズマリー公園』に、小さな帽子屋さんがあります。観光地の土産物屋と侮る無かれ。有名帽子店や百貨店などから受注を受けて、小ロットの高級帽子を長年制作し続けてきた帽子作りのプロ、影山さんのお店です。

居並ぶ帽子は素材も形も様々。カラフルなストローハット、一生ものにしたような本格的パナマ帽、ひのきの帽子から子供用のカクテルハットまで！手に取って見ればどの帽子も素材の確かさと造りの丁寧さが感じられ、軽く、それでいて頭にしっかりと馴染みます。ご主人と奥さんが交代でお店にいらっしゃるの、素材や作り方など伺いながら選ぶのも楽しいかと思えます。

日々培われた確かな技術に加えて「こんなことはできないだろうか、こうやったらできるんじゃないか」と考え手を動かしてチャレンジし続けていらっしゃるのですが、その作品を見ているとよく分かります。「帽子はキリがないんだ。」と語ってくれたご主人の言葉が印象的でした。

工房ではすでに秋冬物のウールの帽子製作が進んでいて、夏の帽子の品揃えはシーズン初めの5月頃がほんとは一番いいそうなんです。帽子をお探してしたら、ぜひ一度「ローズマリーの帽子」へ。

ローズマリーの帽子

千葉県南房総市白子 1501

ローズマリー公園ときめきプラザ内

営業時間 9:00~16:00 (不定休)

☎ 0470-46-2863 (工房)

編集後記*****
小学生のころ、人ごみに混じって観るのが楽しかった鑑南の花火大会。沖に浮かんだ台船から打ちあがる花火を見ながら、「花火をあげる人ってかっこいいな。いつか会ってみたいなあ」と思っていました。取材時にわかったのですが、まさにその台船の上であげていた人が福山さんだったのです！夢が叶いました。(前田)*****
0470も皆さまのご支援のおかげで10号を迎えることができました。本当に皆様方に感謝の気持ちでいっぱいです。発行を重ねる毎に南房総の魅力が再認識すると共に新しい風がこの南房総に吹いていると感じています。これからも応援、宜しくお願い致します(菅野)*****
クルマを運転するとき、とくに春から夏にかけては日差しよげにサングラスをかけていたのですが、トンネルの多い房総ではその度に暗すぎてヒヤッとすることもしばしば。今年はサングラスをやめて帽子をかぶって運転してみました。なかなか良い調子です。(岩松)*****